

■入学おめでとう！



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。みなさんは期待や不安など、さまざまな思いを持って本校に入学されたことと思います。高校は中学校と比べて、学習面はもちろん、部活動や学校行事においても自主性が大きく求められます。何事も自分から積極的にチャレンジしていけば多くのことが得られます。まずは、積極性を大事にしましょう。

高校生活の面白さの一つは、知り合える人の幅広さです。中学校までに知り合える人と言え、せいぜい自分の住んでいる地域の人だけだったのではないかと思います。しかし、高校（特に本校の場合）になると、地元だけでなく、遠く離れたところから通学してくる生徒が大勢います。そういった人たちとの出会いもぜひ大切にしていきましょう。

高校は義務教育ではなく、自分でしっかりとがんばって、進級や卒業のための基準をクリアしなくてはなりません。欠席が多くなると進級に影響しますし、定期考査の点数や宿題などの提出状況も成績に大きく影響します。十分に気をつけましょう。

自分自身の夢や目標に向かって、着実に力をつけていってほしいものです。それぞれが充実した高校生活となることを期待しています。

■2・3年生のみなさんへ

2・3年生のみなさん、進級おめでとうございます。気持ちを新たにして学校生活を送っていきましょう。2年生は「中だるみ」の時期などとよく言われます。本校での生活にも慣れてきたことと思いますので、学習に部活動に・・・と充実した生活を送れるよう、がんばっていきましょう。「2年生でのがんばりが進路を決定させていく」と言っても過言ではありません。

3年生諸君は、いよいよ進路活動が本格化してきます。現時点で、ある程度、自分の方向性が決まっている人はそれに向けて着実に努力を重ねていってください。進学か就職か、大学か専門学校か・・・などで悩んでいる諸君もいると思います。自分の人生ですので、とことん悩み、じっくり考えて選択していくようにしてほしいものです。安易に決めてしまうのはとても危険ですし、ここでの選択は、人生を左右する一つの大きな岐路（きろ）と言えます。先生や家族、友だちなどともしっかり相談して、後悔しなくて済む判断をしていくようにしてください。希望進路実現に向けてがんばっていきましょう。



■卒業生の合格体験記

3月に本校を巣立った昨年度卒業生の合格体験記です。今回は、福島県立医科大学医学部に合格した日向寺芽衣さんと山形大学理学部に合格した根本悠平さんです。日向寺さんについては、合格翌日の2月14日（水）付の福島民報と福島民友で大きく取り上げられました。この件については、本校のBLENDでも伝えられていましたので、記事を読んだという諸君も多かったかと思えます。国公立大学に限らず、みなさん、ぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 日向寺芽衣さん（昨年度3年4組）
福島県立医科大学医学部医学科入学（学校推薦型選抜（公募制））

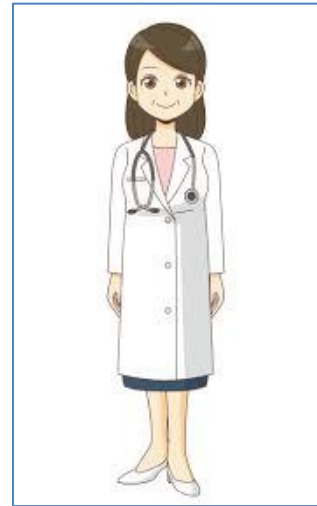
私は、小学生の頃から医師になりたいと考えており、実現に向けてコツコツ勉強してきました。その甲斐もあり、高校2年生までは着実に成績を伸ばすことができました。

しかし、高校3年生になると、成績も伸び悩み、模試では志望校E判定が続き、毎日焦りを感じながら勉強していました。それでも志望校は変えず、少しでも合格する確率が上がればと思い、学校推薦型選抜、一般選抜のどちらにも出願しようと決めました。

3年生になってからの大学入学共通テスト模試（※以下、共通テスト模試）では、6割程度の点数が大学入学共通テスト直前の模試まで続いていました。共通テスト1か月前になっても目標点には遠く及ばない点数でしたが、そこで諦（あきら）めることはせず、しっかりと戦略を立てて勉強したことで本番では大幅に点数を上げることができました。その時は、短期間で伸ばす必要があったため、特に自分の苦手な単元の理解を深めながら、共通テスト模試の演習と問題集をひたすら解き、点数が取れていない教科を伸ばすことを重視して勉強しました。

この経験から、私は受験において、自分をよく知り、今やるべき事、自分に必要な事をよく考えることが重要だと考えます。また、受験を有利に進めていくためにも、早い段階から勉強する習慣をしっかりと付けておく必要があると思います。

最後に、最後まで諦めないで努力を続けていれば、自分の夢にどんどん近づくことができると思いますので、自分を信じて夢に向かって頑張ってください！



【合格体験記】 根本悠平さん（昨年度3年4組）
山形大学理学部理学科（学校推薦型選抜（公募制））

私は、山形大学理学部理学科に合格しました。山形大学を選んだ理由としては、将来、研究職を目指していることと、高校で始めた俳句を詠むことを続けられるサークルがある環境に魅力を感じたからです。



山形大学理学部を学校推薦型選抜Ⅰで受験する場合、口頭試問を受けることになります。口頭試問とは、普通の面接とは違い、受験生が専門的な知識についてホワイトボードなどを使って説明するものです。山形大学理学部ですと、物理、化学、生物などの科目から1つ選んで、選んだ科目に関係する内容について回答することになります。試験は10月中旬ごろで、私は化学を選択しましたが、教科書の範囲からすべて出題されます。そのため、私は分野ごとに区切って、実験器具の取り扱い方法や物質の性質について説明できるように9月初めから準備するように心掛けました。口頭試問の対策では、化学担当の先生2名と担任の先生に頼み、面接するうえで基本になることや過去の問題、志望理由書に書いたことなどを具体的に説明できるようにしました。

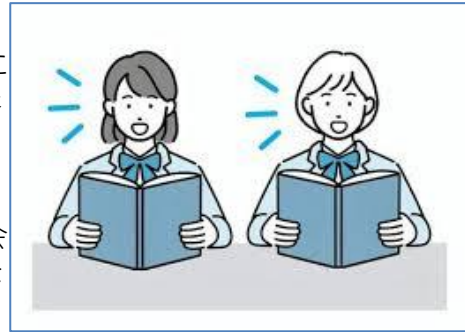
口頭試問本番では、試験官が3名おり、自分の席の右側にホワイトボードがおかれていました。ホワイトボードに問題が映し出されて、それに口頭で答えるという形式でした。口頭試問前に、大学を志望した理由などを2問ほど聞かれましたが、志望理由書に書いたことについて、具体的に答える練習をしておけば大丈夫だと思います。口頭試問の結果は、10問出題されて、初めの2~3問は分からず頭が真っ白になりましたが、自分を落ち着かせることで最後はうまく切り換えられました。

今回の入試で大事だと感じたことは2つあります。1つ目は時間をうまく使うということです。試験の直前まで油断することなく、前日の移動時間や試験会場での待機時間も志望理由書や参考書など、しっかりと確認しておくことで試験にスムーズに臨めたと思います。2つ目は、どんな問題が出題されても、無言にならないように心掛け、笑顔で答えるように気をつけました。

口頭試問を受ける人は、難しい問題が出題されても一旦落ち着いて理解することが大切です。他の生徒もそのように問題が出されたら混乱すると思うので、いかに落ち着けるかが大切になると思います。みなさんがベストを尽くして志望校に合格できるよう応援しています。

■ 充実した学校生活を！

昨年の5月以降、新型コロナウイルスへの対応が5類に切り替わりました。本校では週に1回、孔子の教えをまとめたものとされる『修為要領17条』を学年単位で唱和する機会があります。17条の条文の中には、難しい言い回しもあるかと思いますが、内容的には一般社会における当たり前のことが記載されているとされます。毎週のように唱和に参加していると、少しずつ口をついて暗唱していけるようになるかと思われま



す。コロナ禍においては、声に出して条文を唱和することができませんでした。声に出してこそ、一つひとつの条文が頭の中に入っていくのですが、その機会が3年以上にわたって確保できませんでした。入学式や卒業式などの際に、本校の建学の精神や教育の指針ということで、この『修為要領17条』が取り上げられることがあります。特に2000年度に入学してきた生徒たちは、入学から卒業まで1度も触れる機会がありませんでした。いろいろな面で歯がゆい時期でした。

普段当たり前だと思っていた活動が、事態によっては当たり前のようにできなくなることがあることを、私たちは新型コロナウイルスが拡散するという経験の中で学びました。みなさん、唱和を面倒くさいなど思わずに、毎回しっかりと取り組んでほしいと思います。慣れてきたら、一言一句の意味などもかみしめてほしいものです。その中から、一つでも二つでも良いので、普段心がけていきたい条文を見つけてください。

普段心がけようとする条文を見つけ、それを実践していくことで、少しずつ規則正しい生活をしていけるようになるはずですし、生活自体も充実していくものと思われま

す。3年生になって進路活動を進めていくうえで、「1年生のときからしっかりと生活をしたたり、学習の積み重ねを図ったりしておくべきだった」と反省の弁を述べる生徒がいます。1日で取り組んでいる内容はそれほど多くの内容ではないかもしれませんが、それが1か月、半年、1年と積み重なっていくとかなりの分量になります。そのことを念頭においてください。

この春、入学してきた生徒一人ひとりの思いはさまざまでしょうが、ぜひ継続して何かに取り組み、充実した高校生活にしていってほしいと思います。筆者はこれまでに、さまざまな人にサインをいただいたことがあります。何かを継続して成果に結びつけるということでは、元TBSアナウンサーの鈴木史朗さんに記載していただいた「漁夫生涯竹一竿」が印象に残っています。「技術があれば、それで一生食べていける（漁師であれば釣りの技術ということになるでしょうか）」ということです。鈴木さんは「声」や「アナウンス力」には絶対の自信をお持ちだったようです。みなさんも、将来の礎になる何かをこの3年間で身につけてください。

文責：清水聖（進路指導主事）